

平成 27 年度 文化庁
地域の核となる美術館・博物館支援事業

スポーツミュージアム連携・啓発事業

「国内のスポーツミュージアムの情報収集調査」

アンケート調査の実施報告書

平成 28 年 3 月

スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会

目次

1. アンケート調査概要	p.1-2
2. 調査結果分析	p.3-16
3. 調査結果の総括と今後の調査方針	p.17
4. 調査結果集計データ	p.18-34
5. アンケート調査票	p.35-38

1. アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は文化庁の平成 27 年度「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択されたスポーツミュージアム連携・啓発事業の 1 つ「国内外のスポーツミュージアム情報収集事業」の一環として、中核館である秩父宮記念スポーツ博物館が中心となって行った調査である。

日本国内にはスポーツ資料を所蔵する博物館が各地に点在しているが、所蔵館同士の繋がりがあまりなく、資料の所在を把握できない状況にある。これらの状況を改善するため、スポーツ資料の所在及び管理状況の把握、そしてスポーツミュージアムネットワーク構築に向け、国内でスポーツ資料を所蔵していると考えられる施設や団体 504 箇所に対してアンケート調査を実施した。

(2) 調査対象

スポーツ資料は博物館だけでなく、資料館や図書館、大学、スポーツ団体、官公庁、企業等も所蔵していることから、博物館以外にも調査対象とした。対象者を選定する際、公益財団法人日本博物館協会会員館、東京都博物館協議会加入館、日本体育図書館協議会加盟館、スポーツ学科やスポーツに力を入れている大学、スポーツ史学会ホームページ掲載の「全国スポーツ博物館一覧」、公益財団法人日本体育協会加盟団体、公益財団法人日本プロスポーツ協会加盟団体、都道府県のスポーツ振興課などの情報を参照しながら、504 箇所を選定しアンケートを送付した。

(3) 調査時期

- ・平成 27 年 11 月 30 日から郵送及び電子メールにて順次調査票を送付。
- ・締切りは同年 12 月 25 日とし、301 機関から回答を得た。

(4) 調査内容

本調査では国内でスポーツ資料を所蔵する施設や団体を把握すること、資料管理の状況を把握すること、相手との連携を深めることを主たる目的とした。所蔵資料の内容や数量等の詳細については、次年度以降に第二弾の調査を行うこととし、記述式の回答を最小限に留め、選択式で回答しやすい調査票となるよう工夫した。主な調査項目は以下の 4 つである。

- ・機関の基本情報
- ・スポーツに関する資料の所蔵状況
- ・スポーツ資料の管理について
- ・秩父宮スポーツ博物館及び図書館との連携について

(5) 回収結果

- ・配布数： 504
- ・回収数： 301
- ・回収率： 59.7%

(6) アンケート回収機関の属性内訳

表 1 機関の属性

選択肢	回答数	構成比
博物館、美術館、記念館、資料館	118	39.2%
図書館	41	13.6%
競技団体	37	12.3%
体育協会	23	7.6%
地方自治体	29	9.6%
競技施設ほか	11	3.7%
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	15	5.0%
大学(図書館)	21	7.0%
大学(その他)	6	2.0%
合計	301	100%

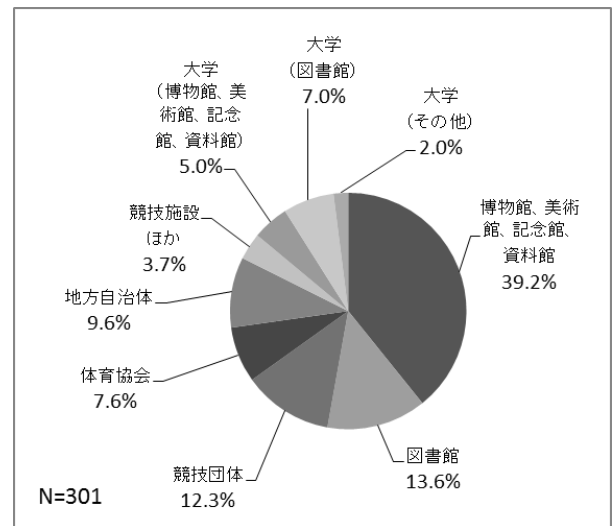


図 1 機関の属性

(7) 備考

- ・構成比率及び回答比率に関しては、小数点以下第2位で四捨五入を行った。
- ・N数には未回答者を含む。
- ・記述式の設問に関しては、傾向を見るために回答をいくつかのカテゴリに分類して集計を行った。

2. 調査結果の分析

本章ではアンケート調査で得られたデータを基に、スポーツ資料の所蔵状況及び資料管理に関する分析を行った。分析対象は、国内大会の中から「国民体育大会」、国際大会の中から「オリンピック」と「パラリンピック」を採り上げた。

全設問の集計結果については、4.調査結果集計データを参照いただきたい。

1 調査対象機関と所蔵資料

①スポーツ資料を所蔵する機関の属性

アンケート調査票が回収された 301 機関の内訳については、スポーツ資料をメインに扱わない歴史系博物館や美術館を含め、公立・企業・法人等の設置者による違いを分けず「博物館、美術館、記念館、資料館」として運営されている施設が 118 箇所、同じく設置者の違いを分けず「図書館」として運営されている施設が 41 箇所、「競技団体」が 37 箇所、各都道府県の「体育協会」が 23 箇所、同じく各都道府県のスポーツ振興課など「地方自治体」が 29 箇所、体育館やスタジアム等の「競技施設」など(スタジアム内の展示施設で名称を持つものは博物館でカウント)が 11 箇所、そして大学が 42 箇所であった。

大学については、博物館をはじめ図書館、総務課、校友課など資料を管理している部署が様々なため、回答のあった 42 箇所を 3 つに分類することとした。その結果、「大学(博物館、美術館、記念館、資料館)」15 箇所、「大学(図書館)」21 箇所、「大学(その他)」6 箇所となった。

これら 301 機関のうち、スポーツ資料を所蔵していると答えたのは、全体の 77.4%にあたる 233 箇所であった。233 箇所の内訳については、「博物館、美術館、記念館、資料館」が 85 箇所と最も多く、「図書館」が 38 箇所、「競技団体」が 27 箇所、「体育協会」が 23 箇所、「地方自治体」が 19 箇所、「競技施設ほか」が 11 箇所、「大学(博物館、美術館、記念館、資料館)」が 7 箇所、「大学(図書館)」が 20 箇所、「大学(その他)」が 3 箇所であった(表 2-1、図 2-1 参照)。

表 2-1 アンケート調査票回収機関の属性とスポーツ資料の所蔵の有無(単一回答)

	所蔵している	所蔵していない	未回答	計
博物館、美術館、記念館、資料館	85	33	0	118
図書館	38	3	0	41
競技団体	27	10	0	37
体育協会	23	0	0	23
地方自治体	19	9	1	29
競技施設ほか	11	0	0	11
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	7	7	1	15
大学(図書館)	20	1	0	21
大学(その他)	3	3	0	6
計	233	66	2	301

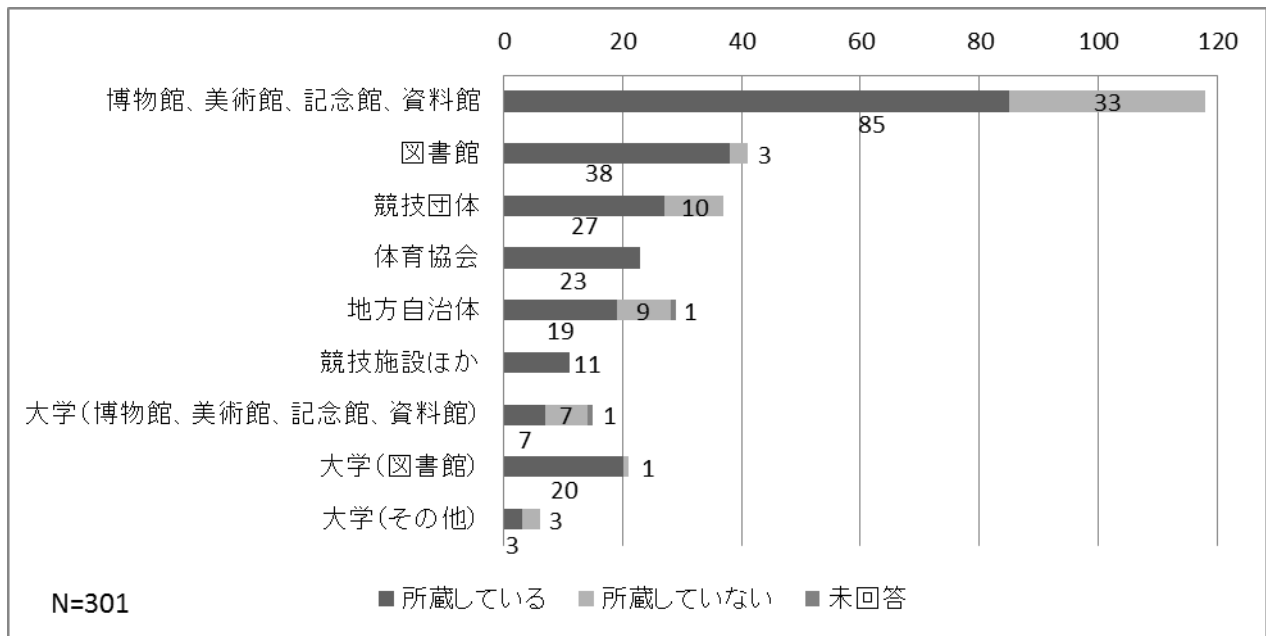


図 2-1 アンケート調査票回収機関の属性とスポーツ資料の所蔵の有無(単一回答)

②分析対象のスポーツ資料

本調査では、国内のどのような機関がどういったスポーツ資料を所蔵しているのか把握するため、特定のスポーツ競技に絞らず、日本各地で毎年開催される国民体育大会や、2020年に再び東京で開催されることが決定され、国民の関心が高まっているオリンピック、パラリンピックといった国際大会、更に地域や機関とゆかりのあるスポーツ選手、郷土特有の伝統的なスポーツ資料について、所蔵調査を行った。

③スポーツ資料の内訳

本調査では回答し易さを優先させ、相手の機関が所蔵するスポーツ資料に関しては、記述式ではなく「実物資料」「文書資料」「記録資料」という3つの資料形態から所蔵資料を選択する形式を採った。

また、3つの資料形態にそれぞれどのような資料が含まれるのか、理解し易いように、アンケート調査票に資料例(図 2-2)を示した。

【資料形態の定義】

実物資料: スポーツ用具、トロフィー、メダル、賞状、ユニフォーム、大会旗、トーチ、記念硬貨

大会ポスター、大会マスコット等の記念品、彫刻、絵画など

文書資料: 古文書や公文書、書籍、地図、建築図面、報告書、手記など

記録資料: 写真、映像、音声資料など

図 2-2 アンケート調査票に記載したスポーツ資料の形態例

2 国内大会に関する資料

①国民体育大会(国体)

国民体育大会は都道府県が毎年持ち回りで開催している大会であり、すでに 47 都道府県全てで開催されている。実施競技数も約 40 種目と多く、メダルやトロフィー、賞状等の実物資料に加え、毎年、報告書も刊行されていることから、開催に関する会議資料や記録媒体等を含めると、膨大な資料が存在すると考えられる。これらの資料がどのような機関で所蔵されているのか、アンケート調査の結果から見てみたい。

表 2-2 を確認すると、スポーツ資料を所蔵していると回答した 233 機関のうち、国民体育大会の資料を所蔵している機関は、71.7%にあたる 167 機関であることが分かる。また、表 2-3 を確認すると、167 機関のうち、もっとも多く資料を所蔵しているのは「博物館、美術館、記念館、資料館」の 50 機関(29.9%)であり、次いで「図書館」の 33 機関(19.7%)、国民体育大会の主催である「体育協会」の 22 機関(13.2%)、「大学(図書館)」の 18 機関(10.8%)と続く。

表 2-2 国体資料の所蔵の有無(単一回答)

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	167	71.7%
所蔵していない	59	25.3%
未回答	7	3.0%
合計	233	100%

表 2-3 国体資料の所蔵の有無と属性別内訳(単一回答)

	所蔵している		所蔵していない	未回答	計
博物館、美術館、記念館、資料館	50	29.9%	32	3	85
図書館	34	20.3%	3	1	38
競技団体	14	8.4%	12	1	27
体育協会	22	13.2%	1	0	23
地方自治体	16	9.6%	2	1	19
競技施設ほか	9	5.4%	2	0	11
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	2	1.2%	5	0	7
大学(図書館)	18	10.8%	1	1	20
大学(その他)	2	1.2%	1	0	3
計	167	100%	59	7	233

ただし、国体資料を所蔵する機関数については、もともと機関ごとの数値にバラつきがあるため、単純に数だけで比較をすることはできない。

例えば表 2-3 では、16 機関(9.6%)の「地方自治体」や 9 機関(5.4%)の「競技施設ほか」は、他機関に比べると国体資料をあまり所蔵していないように見える。しかし、表 2-4 を参照すると、スポーツ資料を持つ「地方自治体」計 16 機関の中では 84.2%、同じく「競技施設ほか」計 9 機関の中では 81.8%という非常に高い割合で所蔵されていることが分かる。

最も多く国体資料を所蔵している「博物館、美術館、記念館、資料館」について確認すると、85 機関のうち 50 機関が所蔵しているため、58.8%となる。資料の所蔵状況の分析を行う際には、数だけで比較をするのではなく、各機関内での割合も考慮しなければならない。

表 2-4 国体資料の所蔵の割合:スポーツ資料を所蔵する機関ごと (単一回答)

大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
博物館、美術館、記念館、資料館	50	58.8%	32	37.7%	3	3.5%	85	100%
図書館	34	89.5%	3	7.9%	1	2.6%	38	100%
競技団体	14	51.9%	12	44.4%	1	3.7%	27	100%
体育協会	22	95.7%	1	4.3%	0	0%	23	100%
地方自治体	16	84.2%	2	10.5%	1	5.3%	19	100%
競技施設ほか	9	81.8%	2	18.2%	0	0%	11	100%
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	2	28.6%	5	71.4%	0	0%	7	100%
大学(図書館)	18	90.0%	1	5.0%	1	5.0%	20	100%
大学(その他)	2	66.7%	1	33.3%	0	0%	3	100%
計	167		59		7		233	

表 2-5 で機関ごとの国民体育大会資料の内訳を確認すると、実物資料、文書資料、記録資料などがバランス良く見られるのは「博物館、美術館、記念館、資料館」と「体育協会」であることが分かる。

また、資料の所蔵機関として 2 番目に多かった「図書館」や、他に比べて多かった「大学(図書館)」は、やはり実物資料や記録資料よりも文書資料が突出して多いことが分かる。これらの文書資料に関しては、入手が難しい会議資料というよりは、比較的入手しやすい報告書や大会プログラムを示しているのではないかと考えられる。

更に実物資料に関しては、「競技施設ほか」も他に比べて所蔵が多いことが分かる。また「競技団体」や「地方自治体」に関しては、実物資料が少ない代わりに文書資料や記録資料が多く見られ、おそらく開催地等の会議資料や大会プログラム、ビデオや写真等が多く所蔵されているものと考えられる。

今回の調査では回答し易さを優先させ、資料形態「実物資料」「文書資料」「記録資料」という大きな括りで、所蔵の有無を問う内容だったため、資料形態別にそれぞれの機関がどのようなものを所蔵し、どのくらいの数量を持っているのか、といった詳細までは残念ながら踏み込めなかった。

表 2-5 属性による国体資料の形態別内訳(複数回答可)

	実物資料	文書資料	記録資料	その他	未回答	計
博物館、美術館、記念館、資料館	37	20	21	6	1	85
図書館	2	30	4	4	0	40
競技団体	2	10	10	2	0	24
体育協会	14	15	18	0	1	48
地方自治体	5	12	9	0	2	28
競技施設ほか	8	4	6	3	0	21
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	1	2	1	0	0	4
大学(図書館)	1	18	3	0	0	22
大学(その他)	0	2	0	0	0	2
計	70	113	72	15	4	274

3 国際大会に関する資料

①オリンピック

日本の選手が初めてオリンピックに参加したのは、1912年の第5回ストックホルム大会からであり、1980年の第22回モスクワ大会のように不参加となった年もあるが、これまで100年以上オリンピックに参加していることになる。

また、1964年の第18回オリンピック東京大会、1972年の第11回冬季オリンピック札幌大会、1998年の第18回冬季オリンピック長野大会と、日本国内ではこれまで夏と冬、合わせて3回のオリンピックが開催されており、開催が決定されていたにも拘らず、日中戦争の激化により返上せざるを得ず実現できなかった1940年の「幻のオリンピック」や、大阪や名古屋、福岡など様々な都市で展開されてきたオリンピック招致活動を含めると、国内には膨大な数のオリンピックに関する資料があると考えられる。

表2-6からはスポーツ資料を所蔵していると回答した233機関のうち、オリンピック資料を所蔵している機関は66.1%にあたる154機関であることが分かる。

また表2-7を確認すると、154機関のうち、もっとも多く資料を所蔵しているのは「博物館、美術館、記念館、資料館」の52機関(33.8%)であり、次いで「図書館」の36機関(23.4%)、「大学(図書館)」の19機関(12.3%)と続く。

表2-6 オリンピック資料の所蔵有無(単一回答)

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	154	66.1%
所蔵していない	70	30.0%
未回答	9	3.9%
合計	233	100%

オリンピック資料を所蔵する154機関のうち、件数に関して回答があったのは101機関である(表2-7)。100件未満が最も多く、次いで100～500件未満となっている。また、表2-8を参照すると、これらの機関で所蔵しているオリンピック資料の形態については文書資料、記録資料、実物資料という順で所蔵が多いことが分かる。

表2-7 オリンピック資料の所蔵件数
(自由回答)

選択肢	回答数	構成比
100件未満	46	29.9%
100件以上500件未満	40	26.0%
500件以上1000件未満	9	5.8%
1000件以上	6	3.9%
不明・未回答	53	34.4%
合計	154	100%

表2-8 154機関が所蔵するオリンピック資料の形態
(複数回答可)

選択肢	回答数	構成比
実物資料	68	25.3%
文書資料	98	36.6%
記録資料	74	27.6%
その他	20	7.5%
未回答	8	3.0%
合計	268	100%

機関ごとに、それぞれのオリンピック資料の所蔵割合を表2-9で確認すると、「図書館」と「大学(図書館)」に関しては、所蔵機関の割合がそれぞれ9割を超えており、これらの機関のほとんどがオリンピック資料を所蔵しているといえる。また、「大学(博物館、美術館、記念館、資料館)」や「大学(その他)」といった大学の施設、そして「競技施設ほか」でもオリンピック資料を所蔵する割合が極めて高いといえる。

表 2-9 オリンピック資料の所蔵の割合:スポーツ資料を所蔵する機関ごと (単一回答)

大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
博物館、美術館、記念館、資料館	52	61.2%	29	34.1%	4	4.7%	85	100%
図書館	36	94.8%	1	2.6%	1	2.6%	38	100%
競技団体	10	37.0%	16	59.3%	1	3.7%	27	100%
体育協会	12	52.2%	11	47.8%	0	0%	23	100%
地方自治体	8	42.1%	9	47.4%	2	10.5%	19	100%
競技施設ほか	8	72.7%	3	27.3%	0	0%	11	100%
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	6	85.7%	1	14.3%	0	0%	7	100%
大学(図書館)	19	95.0%	0	0%	1	5.0%	20	100%
大学(その他)	3	100%	0	0%	0	0%	3	100%
計	154		70		9		233	

次に、それぞれの機関がどのようなオリンピック資料を所蔵するのか、表 2-10 で確認する。資料は、実物資料、文書資料、記録資料、その他に分類されており、実物資料に関しては「博物館、美術館、記念館、資料館」が他に比べて多いことが分かる。また、同様に文書資料や記録資料についても、他の機関より所蔵が多いことが分かる。

文書資料と記録資料に関しては「図書館」や「大学(図書館)」が多いことが分かる。文書資料に関しては、入手が難しいオリンピック大会の会議資料というよりは、出版物として市場に流通し、比較的入手しやすい大会報告書や大会プログラム等を所蔵している可能性が高い。また、記録資料に関しては写真や映像、音声資料等が含まれている可能性が高い。

「体育協会」に関しては、数は多くないが、実物資料、文書資料、記録資料などがバランス良く見られる。また「競技団体」や「地方自治体」では、おそらく開催地等の会議資料や大会プログラム、ビデオや写真等が多く所蔵されているものと考えられる。今回のアンケート調査では、各機関が所有するオリンピック資料の状況を把握することを優先したため、資料形態での質問となった。今後、詳細調査を行うなどして、どのような資料を所蔵しているのか、情報を収集することで、更なる分析が可能となると思われる。

表 2-10 所蔵しているオリンピック資料の形態 属性別内訳(複数回答可)

	実物資料	文書資料	記録資料	その他	未回答	計
博物館、美術館、記念館、資料館	41	25	28	11	4	109
図書館	3	33	10	4	1	51
競技団体	0	5	7	0	0	12
体育協会	6	7	5	1	1	20
地方自治体	3	6	2	0	0	11
競技施設ほか	5	2	6	2	0	15
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	4	2	5	0	0	11
大学(図書館)	3	16	10	2	2	33
大学(その他)	3	2	1	0	0	6
計	68	98	74	20	8	268

②パラリンピック

国内でも近年、ブラインドサッカーやシッティングバレー、車いすバスケットボールなど、様々な障害者スポーツ競技がメディア等に採り上げられるなど、国民の関心も高まっている。

1964年の第18回オリンピック東京大会が終わったあと、1964年11月8日～12日まで国際身体障害者スポーツ大会の第1部として国際大会(パラリンピック)が東京で開催された。

本調査の実施者であり、スポーツミュージアム連携・啓発事業実行委員会の中心である秩父宮記念スポーツ博物館は、1964年の第18回オリンピック東京大会の競技会場である旧国立競技場内にあった施設ということもあり、メダルやユニフォームなどの実物資料をはじめ、大会運営に関わる文書資料など豊富なオリンピック資料を有する。また、関連施設として代々木競技場で行われた競技関連の資料も所蔵している。しかしながら、この当時のパラリンピックに関する資料として所蔵しているものは、大会プログラムくらいしかない状況である。

近年、パラリンピックを含め、障害者スポーツ競技に対する関心の高まりから、秩父宮記念スポーツ博物館でも博物館資料として収集を考えているが、資料を保有する機関や個人との連携・協力体制も構築されはじめたばかりであり、特別展での資料の借用に留まっている状況である。このような事例も踏まえながら、それぞれの機関における所蔵状況について確認したいと思う。

表2-11からはスポーツ資料を所蔵していると回答した233機関のうち、パラリンピック資料を所蔵している機関は33.9%にあたる79機関であることが分かる。

また、表2-11を確認すると、79機関のうち、もっとも多く資料を所蔵しているのは「図書館」の36機関(45.6%)であり、次いで、「博物館、美術館、記念館、資料館」の16機関(20.2%)と「大学(図書館)」の16機関(20.2%)が続く。

表2-11 パラリンピック資料の所蔵有無(単一回答)

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	79	33.9%
所蔵していない	144	61.8%
未回答	10	4.3%
合計	233	100%

パラリンピック資料を所蔵する79機関のうち、件数に関して回答があったのは51機関である(表2-12)。50件未満が最も多く、50件以上所蔵する機関は少数である。また、表2-13を参照すると、これらの機関で所蔵しているオリンピック資料の形態については文書資料、記録資料、実物資料という順で所蔵されていることが分かる。

表2-12 パラリンピック資料の所蔵件数(自由回答)

選択肢	回答数	構成比
50件未満	45	57.0%
50件以上100件未満	5	6.3%
100件以上	1	1.3%
不明・未回答	28	35.4%
合計	79	100%

表2-13 パラリンピック資料の形態(複数回答可)

選択肢	回答数	構成比
実物資料	7	6.9%
文書資料	61	60.4%
記録資料	20	19.8%
その他	8	7.9%
未回答	5	5.0%
合計	101	100%

「図書館」では未回答を含めた 2 機関を除き、ほぼ全ての機関で所蔵していると答えている。「博物館、美術館、記念館、資料館」と「大学(図書館)」は、所蔵する機関数では 16 で同じだが、表 2-14 を見ると、「博物館、美術館、記念館、資料館」の中では 18.8%、「大学(図書館)」の中では 80%と、各機関での所蔵の割合がかなり異なることが分かる。全体としては、パラリンピック資料を所蔵していない機関が多いといえる。

表 2-14 パラリンピック資料の所蔵の割合:スポーツ資料を所蔵する機関ごと (単一回答)

大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
博物館、美術館、記念館、資料館	16	18.8%	65	76.5%	4	4.7%	85	100%
図書館	36	94.8%	1	2.6%	1	2.6%	38	100%
競技団体	2	7.4%	23	85.2%	2	7.4%	27	100%
体育協会	1	4.3%	22	95.7%	0	0%	23	100%
地方自治体	1	5.3%	17	89.4%	1	5.3%	19	100%
競技施設ほか	5	45.5%	6	54.5%	0	0%	11	100%
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	1	14.3%	6	85.7%	0	0%	7	100%
大学(図書館)	16	80.0%	2	10.0%	2	10.0%	20	100%
大学(その他)	1	33.3%	2	66.7%	0	0%	3	100%
計	79		144		10		233	

表 2-15 で各機関が所蔵するパラリンピック資料の内訳を確認すると、全体として文書資料が突出して多く、実物資料が極端に少ないといえる。また、実物資料に比べると記録資料のほうが若干多く見られるが、やはり文書資料以外の資料の所蔵は少ない。

パラリンピック資料を所蔵している機関に関しては、文書資料を所蔵している「図書館」や「大学(図書館)」が突出しているといえる。これらの機関が所蔵する文書資料に関しては、オリンピック資料と同様に、入手困難な大会に関わる会議資料というよりは、比較的入手しやすい大会報告書や大会プログラム等を所蔵していると考えられる。他の2つの大会に関する資料の所蔵状況と同様に、今後、詳細調査を行うなどして、それぞれの機関がどのような資料を所蔵しているのか明らかにすることで、更なる分析を進めたいと考える。

表 2-15 所蔵しているパラリンピック資料の形態 属性別内訳 (複数回答可)

	実物資料	文書資料	記録資料	その他	未回答	計
博物館、美術館、記念館、資料館	4	12	7	3	1	27
図書館	1	30	5	3	2	41
競技団体	0	0	2	0	0	2
体育協会	0	0	0	1	0	1
地方自治体	0	1	0	0	0	1
競技施設ほか	1	2	4	1	0	8
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	0	1	0	0	0	1
大学(図書館)	1	14	2	0	2	19
大学(その他)	0	1	0	0	0	1
計	7	61	20	8	5	101

4 スポーツ資料の所蔵状況に関するまとめ

国内大会の中から「国民体育大会」、国際大会の中から「オリンピック」と「パラリンピック」を採り上げ、スポーツ資料を所蔵する機関における資料の所蔵状況の分析を行った結果、上記 3 大会に関しては、やはりパラリンピック資料を所蔵する機関が非常に少なく、大学図書館を含めた「図書館」以外では「博物館、美術館、記念館、資料館」を除くと、ほとんど所蔵がない状況であった(表 2-16、表 2-17 参照)。

また、国民体育大会に関しては、機関ごとの所蔵割合で見た場合、他の大会と同様に大学図書館を含めた「図書館」での所蔵率が高いが、大会の主催である「体育協会」や運営元である「地方自治体」、そして競技会場などの「競技施設ほか」でも所蔵が多い状況が分かる。

表 2-16 機関ごとの 3 大会資料の所蔵状況 1

「博物館、美術館、記念館、資料館」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	50	58.8%	32	37.7%	3	3.5%	85
オリンピック	52	61.2%	29	34.1%	4	4.7%	85
パラリンピック	16	18.8%	65	76.5%	4	4.7%	85
計	118		126		11		255
「図書館」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	34	89.5%	3	7.9%	1	2.6%	38
オリンピック	36	94.8%	1	2.6%	1	2.6%	38
パラリンピック	36	94.8%	1	2.6%	1	2.6%	38
計	106		5		3		114
「競技団体」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	14	51.9%	12	44.4%	1	3.7%	27
オリンピック	10	37.0%	16	59.3%	1	3.7%	27
パラリンピック	2	7.4%	23	85.2%	2	7.4%	27
計	26		51		4		81
「体育協会」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	22	95.7%	1	4.3%	0	0%	23
オリンピック	12	52.2%	11	47.8%	0	0%	23
パラリンピック	1	4.3%	22	95.7%	0	0%	23
計	35		34		0		69
「地方自治体」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	16	84.2%	2	10.5%	1	5.3%	19
オリンピック	8	42.1%	9	47.4%	2	10.5%	19
パラリンピック	1	5.3%	17	89.4%	1	5.3%	19
計	25		28		4		57

表 2-17 機関ごとの 3 大会資料の所蔵状況 2

「競技施設ほか」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	9	81.8%	2	18.2%	0	0%	11
オリンピック	8	72.7%	3	27.3%	0	0%	11
パラリンピック	5	45.5%	6	54.5%	0	0%	11
計	22		11		0		33
「大学(博物館、美術館、記念館、資料館)」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	2	28.6%	5	71.4%	0	0%	7
オリンピック	6	85.7%	1	14.3%	0	0%	7
パラリンピック	1	14.3%	6	85.7%	0	0%	7
計	9		12		0		21
「大学(図書館)」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	18	90.0%	1	5.0%	1	5.0%	20
オリンピック	19	95.0%	0	0%	1	5.0%	20
パラリンピック	16	80.0%	2	10.0%	2	10.0%	20
計	53		3		4		60
「大学(その他)」大会別の資料所蔵状況（単一回答）							
大会名	所蔵している		所蔵していない		未回答		計
国民体育大会	2	66.7%	1	33.3%	0	0%	3
オリンピック	3	100%	0	0%	0	0%	3
パラリンピック	1	33.3%	2	66.7%	0	0%	3
計	6		3		0		9

3 つの大会では、機関数が最も多い「博物館、美術館、記念館、資料館」がスポーツ資料を多く所蔵している機関として挙げられ、「図書館」、「大学(図書館)」という順で所蔵が多い、という状況が確認できる。ただし、表 2-16、表 2-17 で、機関ごとの資料の所蔵状況を見た場合、この 3 つの大会に関して「図書館」と「大学(図書館)」では、「所蔵している」と答えた機関がそれぞれ 8～9 割を超えており、他の機関との所蔵率の差がかなりあるといえる。

次に機関ごとに 3 つの大会で所蔵する資料の形態について表 2-18、表 2-19 を確認すると、資料全体では文書資料が 4 割を占め、続いて 3 割弱の記録資料、2 割強の現物資料の順に所蔵数が多くなっている。文書資料に関しては「図書館」が最も多く所蔵しているが、実物資料を含め、文書資料、記録資料など他に比べて多く所蔵している機関は「博物館、美術館、記念館、資料館」であることが分かる。

また、3 つの大会のうちオリンピック資料が多い機関は「博物館、美術館、記念館、資料館」、「図書館」、「大学」であり、それ以外の機関はどちらかというと国民体育大会の資料が多いといえる。

パラリンピック資料に関しては、文書資料を除くと、実物資料や記録資料の数が他の 2 つの大会の 4 分の 1 程度に減るなど、資料形態の偏りが他の大会より大きいといえる。

表 2-18 機関ごとの 3 大会資料の所蔵状況(資料形態別)1

「博物館、美術館、記念館、資料館」大会別の資料所蔵状況（複数回答可）											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	37	43.5%	20	23.5%	21	24.7%	6	7.1%	1	1.2%	85
オリンピック	41	37.6%	25	22.9%	28	25.7%	11	10.1%	4	3.7%	109
パラリンピック	4	14.8%	12	44.5%	7	25.9%	3	11.1%	1	3.7%	27
計	82		57		56		20		6		221
「図書館」大会別の資料所蔵状況（複数回答可）											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	2	5.0%	30	75.0%	4	10.0%	4	10.0%	0	0%	40
オリンピック	3	5.9%	33	64.7%	10	19.6%	4	7.8%	1	2.0%	51
パラリンピック	1	2.4%	30	73.2%	5	12.2%	3	7.3%	2	4.9%	41
計	6		93		19		11		3		132
「競技団体」大会別の資料所蔵状況（複数回答可）											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	2	8.3%	10	41.7%	10	41.7%	2	8.3%	0	0%	24
オリンピック	0	0%	5	41.7%	7	58.3%	0	0%	0	0%	12
パラリンピック	0	0%	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	2
計	2		15		19		2		0		38
「体育協会」大会別の資料所蔵状況（複数回答可）											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	14	29.2%	15	31.2%	18	37.5%	0	0%	1	2.1%	48
オリンピック	6	30.0%	7	35.0%	5	25.0%	1	5.0%	1	5.0%	20
パラリンピック	0	0%	0	0%	0	0%	1	100%	0	0%	1
計	20		22		23		2		2		69
「地方自治体」大会別の資料所蔵状況（複数回答可）											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	5	17.9%	12	42.9%	9	32.1%	0	0%	2	7.1%	28
オリンピック	3	27.3%	6	54.5%	2	18.2%	0	0%	0	0%	11
パラリンピック	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1
計	8		19		11		0		2		40
「競技施設ほか」大会別の資料所蔵状況（複数回答可）											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	8	38.1%	4	19.0%	6	28.6%	3	14.3%	0	0%	21
オリンピック	5	33.4%	2	13.3%	6	40.0%	2	13.3%	0	0%	15
パラリンピック	1	12.5%	2	25.0%	4	50.0%	1	12.5%	0	0%	8
計	14		8		16		6		0		44
「大学(博物館、美術館、記念館、資料館)」大会別の資料所蔵状況（複数回答可）											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%	0	0%	0	0%	4
オリンピック	4	36.4%	2	18.2%	5	45.4%	0	0%	0	0%	11
パラリンピック	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1
計	5		5		6		0		0		16

表 2-19 機関ごとの 3 大会資料の所蔵状況(資料形態別)2

「大学(図書館)」大会別の資料所蔵状況(複数回答可)											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	1	4.5%	18	81.8%	3	13.7%	0	0%	0	0%	22
オリンピック	3	9.1%	16	48.4%	10	30.3%	2	6.1%	2	6.1%	33
パラリンピック	1	5.3%	14	73.7%	2	10.5%	0	0%	2	10.5%	19
計	5		48		15		2		4		74

「大学(その他)」大会別の資料所蔵状況(複数回答可)											
資料の形態	現物資料		文書資料		記録資料		その他		未回答		計
国民体育大会	0	0%	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2
オリンピック	3	50.0%	2	33.3%	1	16.7%	0	0%	0	0%	6
パラリンピック	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1
計	3		5		1		0		0		9

また、3 つの大会のうちオリンピック資料が多い機関は「博物館、美術館、記念館、資料館」、「図書館」、「大学」であり、それ以外の機関はどちらかというと国民体育大会の資料が多いといえる。

パラリンピック資料に関しては、文書資料を除くと、実物資料や記録資料の数が他の 2 つの大会の 4 分の 1 程度に減るなど、資料形態の偏りが他の大会より大きいといえる。

5 スポーツ資料の管理

スポーツ資料の管理に関しては、通常、博物館であれば、紙媒体の資料目録やリスト、台帳、そしてコンピューターによる収蔵管理システム等を利用して管理を行う。スポーツ資料の特性として、スポーツ大会の主催者や競技施設、競技団体、図書館等、博物館以外で資料を所蔵している機関が多いことから、本調査では博物館以外の機関も調査対象としたという経緯がある。

博物館のように資料を専門に扱う施設ではない様々な機関が、どのように資料を管理しているのか確認するため、資料管理に関する設問を設けた。これらの点を踏まえ、調査結果を見てみたい。

表 2-20 からスポーツ資料を所蔵していると回答した 233 機関のうち、目録やリスト等で資料の管理を行っている機関は 3 割弱の 28.8%にあたる 67 機関であることが分かる。

また現在、目録やリスト等での管理は行っていないが、作成を検討していると回答した機関が 22 機関(9.4%)と非常に少なく、全体の約 6 割が所蔵資料を管理するという点に関して、あまり重要と考えていないように思われる。

表 2-21 で機関ごとの管理状況を確認すると、他の機関に比べて数が多い「博物館、美術館、記念館、資料館」が最も多く 41 機関であった。これは「ある」と回答した 67 機関の 6 割にあたる。

表 2-20 スポーツ資料の目録やリスト有無(単一回答)

選択肢	回答数	構成比
目録やリストがある	67	28.8%
目録やリストの作成を検討中	22	9.4%
目録やリストはない	139	59.7%
未回答	5	2.1%
合計	233	100%

表 2-21 スポーツ資料の目録やリストの有無 属性別内訳(単一回答)

	ある		検討中		ない	未回答	計
	件数	割合	件数	割合			
博物館、美術館、記念館、資料館	41	61.2%	10	45.5%	31	3	85
図書館	6	9.0%	0	0%	30	2	38
競技団体	1	1.5%	5	22.7%	21	0	27
体育協会	2	3.0%	2	9.1%	19	0	23
地方自治体	1	1.5%	1	4.5%	17	0	19
競技施設ほか	3	4.4%	3	13.7%	5	0	11
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	2	3.0%	1	4.5%	4	0	7
大学(図書館)	9	13.4%	0	0%	11	0	20
大学(その他)	2	3.0%	0	0%	1	0	3
計	67	100%	22	100%	139	5	233

しかし、アンケート調査で「目録やリストがある」と答えた機関が6機関の「図書館」や、9機関の「大学(図書館)」に関しては、注意が必要である。

今回、アンケート調査で回答いただいた図書館と大学図書館は、公立の場合は地域の核となる中央図書館であり、また大学図書館に関しては学生数が多い大学が中心である。このような規模の大きな図書館の場合、通常、所蔵資料はOPACというコンピューターの蔵書管理システム、もしくは紙媒体の目録カード等、何らかの方法で資料は管理されており、図書館として「目録やリストが全くない」ということは考え難い。

また、「目録やリストがない」と答えた図書館と大学図書館について調べたところ、一部の団体が運営する小規模な図書館を除き、ほとんどの図書館がインターネットを通じて外部から蔵書検索ができる状況であった。

アンケート調査では「スポーツ資料の目録やリストがあるか」という質問をしているが、「ない」と回答した図書館や大学図書館に関しては、OPACのような資料全体を検索するシステムはあっても、「スポーツ資料に特化した目録やリストはない」という意味で答えた可能性が考えられる。これらの機関に関しては、再度、資料管理について調査を行う必要がある。

「現在は目録やリストはないが検討中」と回答した22機関のうち、約半数の10機関が、「博物館、美術館、記念館、資料館」であり、「競技団体」5機関、「競技施設ほか」3機関と続く。本来、資料の管理を行わなければいけない「博物館、美術館、記念館、資料館」に関しては、当然の結果といえるが、「競技団体」や「競技施設ほか」で「検討中」と答えた機関が他に比べて多かったのは意外であった。今後、これらの機関にもスポーツ資料の分類基準などを含め、目録やリストでの資料管理に関して、情報を提供すべきと考える。

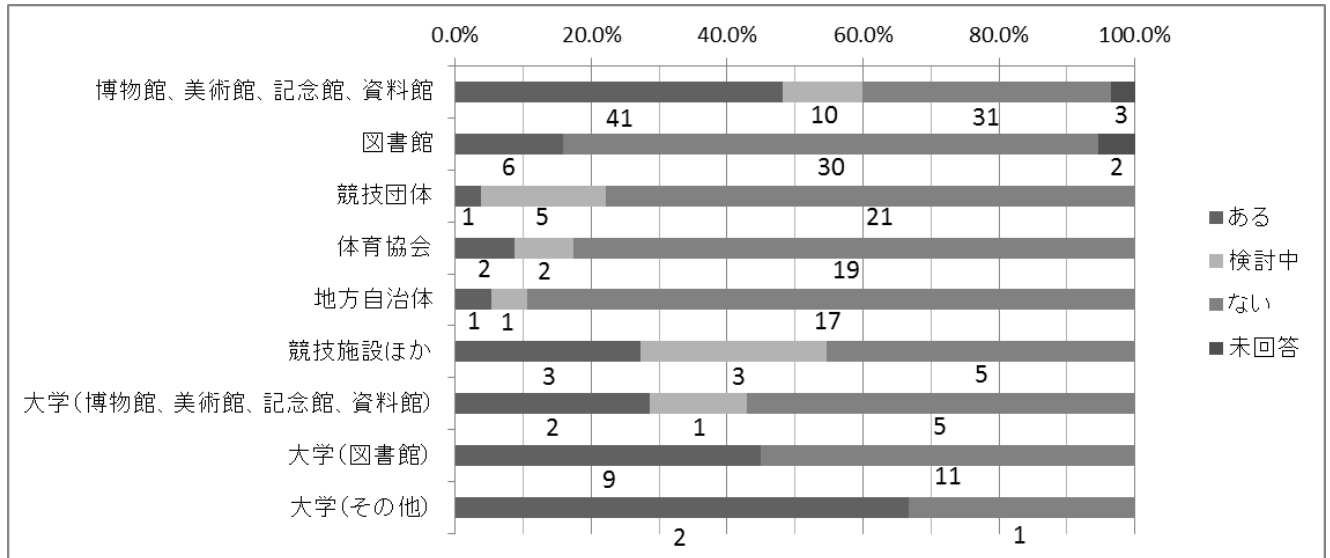
機関ごとの資料の管理状況について図2-3で確認してみると、「博物館、美術館、記念館、資料館」では「目録やリスト等での管理を行っている、もしくは作成を検討中」と答えた機関が85機関中51機関と6割であった。未回答の3機関を除き、残りの4割弱の31機関に関しては「目録やリストが無く資料の管理ができていない状況にあるにも拘らず、目録やリスト等の作成を検討していない」となる。

しかし、これらの31機関について調べたところ、国立や公立が設置する機関が半数以上を占めており、「目録やリスト等が全くない」ということは、先ほどの図書館と同様に考え難い。やはり「スポーツ資料に特化した目録やリストはない」という意味で答えた可能性があるため、再度、調査を行う必要があると思われる。

スポーツ資料の管理に関しては、資料数や資料の形態の違い等を考慮しながら、それぞれの機関に合った方法で管理することが望ましいと思われる。

現在、目録やリストで管理を行っている「博物館、美術館、記念館、資料館」の方法等を参考にしながら、どのような管理が可能かスポーツ資料を所蔵する機関同士で意見交換等を行い、多くの機関が抱えるこの問題に対処すべきと考える。

図 2-3 スポーツ資料の目録やリスト有無の割合:スポーツ資料を所蔵する機関ごと(単一回答)



3. 調査結果の総括と今後の調査方針

本調査では、全国に点在しているスポーツ資料に関する所在状況の把握と、資料の管理状況及びスポーツミュージアムネットワーク構築のため、スポーツ資料を所蔵していると思われる博物館を中心とした504の機関にアンケート調査票を送付し、ご協力頂いた301機関から得た回答の集計・分析を行った。

スポーツ資料の所蔵状況については、301機関の77.4%にあたる233機関が、何らかのスポーツ資料を所蔵しているという結果となり、機関の属性別に見ても、全ての属性で半数以上の機関がスポーツに関する資料を所蔵していることが明らかとなった(表2-1参照)。

また、国民体育大会、オリンピック、パラリンピックという3つの国内・国際大会については、機関別、資料形態別に所蔵状況の分析を行い、スポーツ資料の所在や傾向について、その一部を把握する事が可能となった。

資料の管理方法に関する調査では、目録・リスト化が出来ている機関の少なさが明らかとなった。しかし、「目録やリストがない」と回答した図書館や博物館等に関しては、「スポーツ資料に特化した目録やリストはない」という意味で回答した可能性が考えられ、それぞれの機関に合わせた質問や例文を載せるなど、こちらの趣旨が伝わるよう工夫をした上で、再度、調査を行い分析をする必要があると考える。

スポーツ資料以外を含めた収蔵資料数を問う設問では、未回答や不明を選ぶ機関が4割を超えるなど、それぞれの機関で所蔵する資料が把握できていない状況が見えた。スポーツ資料を所蔵する機関に限定すると、3割弱の69機関が該当する。これらの機関のほとんどは、博物館や図書館以外の機関である。

資料の分類基準や管理方法に関しては、実際に業務として資料の分類を行い、目録やリスト等で管理を行っている博物館でも機関によって異なる。資料の分類や管理は、どの機関にも共通した課題である。まずは博物館が中心となって分類基準や管理方法を検討し、他の機関に情報提供するのが良いと思われる。

以上は調査結果から分かったことの一部であるが、今回の調査結果を踏まえ、今後は今回ご協力いただいたスポーツ資料を収蔵する博物館や団体等に対して、より踏み込んだ内容(所蔵するスポーツ資料の種類、数量、分類、管理状況等)のアンケートを実施すると共に、今回アンケート調査の対象とならなかった機関に対して、スポーツ資料の所蔵や管理に関する調査を行い、更に情報を蓄積させていきたいと考える。

4. 調査結果集計データ

A 基本情報

II 貴機関が所有する展示施設について

(1) 所蔵資料を展示する施設の有無について
(単一回答)

選択肢	回答数	構成比
展示施設がある	165	54.8%
展示施設がない	136	45.2%
合 計	301	100%

(4) 展示施設の開設年月について (自由回答)
※展示施設がある 164 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
1949年以前	4	2.4%
1950年代・1960年代	16	9.7%
1970年代・1980年代	47	28.5%
1990年代・2000年代	74	44.8%
2010年以降	19	11.5%
不明・未回答	5	3.0%
合 計	165	100%

(5) 展示施設の年間来場者数について
(自由回答)

※展示施設がある 164 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
10000人未満	48	29.1%
10000人以上50000人未満	53	32.1%
50000人以上100000人未満	13	7.9%
100000人以上500000人未満	17	10.3%
500000人以上1000000人未満	8	4.8%
1000000人以上	5	3.0%
不明・未回答	21	12.7%
合 計	165	100%

III 貴機関が所蔵する収蔵資料件数について

(1) 貴機関が所蔵する総収蔵資料件数について
(自由回答)

選択肢	回答数	構成比
1,000件未満	22	7.3%
1,000件以上10,000件未満	28	9.3%
10,000件以上100,000件未満	45	15.0%
100,000件以上1,000,000件未満	56	18.6%
1,000,000件以上	9	3.0%
不明・未回答	141	46.8%
合 計	301	100%

B スポーツ資料

I スポーツ資料の所蔵について

(1) スポーツに関する資料の所蔵 (単一回答)

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	233	77.4%
所蔵していない	66	21.9%
未回答	2	0.7%
合 計	301	100%

II 所蔵するスポーツ資料について

(1) 国民体育大会（国体）に関する資料について ①国民体育大会（国体）資料の所蔵の有無（単一回答） ※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	167	71.7%
所蔵していない	59	25.3%
未回答	7	3.0%
合 計	233	100%

②国民体育大会（国体）資料の形態（複数回答可）

※国体資料を所蔵する 166 機関が対象

選択肢	回答数	回答比
実物資料	70	25.5%
文書資料	113	41.2%
記録資料	72	26.3%
その他	15	5.5%
未回答	4	1.5%
合 計	274	100%

②国体資料の形態で「その他」の記述回答

参加バッチ、書籍、ユニフォーム等（※1998年53回国体資料のみ）、記念で揚げた大凧資料、報告書、山口国体の資料、DVD、行政資料、大会プログラム、写真、競技別プログラム、切手及び切手原画

(2) 全国障害者スポーツ大会に関する資料について

①全国障害者スポーツ大会資料の所蔵の有無（単一回答） ※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	59	25.3%
所蔵していない	166	71.3%
未回答	8	3.4%
合 計	233	100%

②全国障害者スポーツ大会資料の形態（複数回答可）

※全国障害者スポーツ大会資料を所蔵する 59 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	6	8.4%
文書資料	46	64.8%
記録資料	10	14.1%
その他	9	12.7%
合 計	71	100%

②全国障害者スポーツ大会資料の形態で
「その他」の記述回答

第 34 回大会物品、第 53 回(1998 年)国体後に行われた大会資料、山口国体の資料、写真、切手及び切手原画、大会プログラム報告書

(3) 全日本選手権大会に関する資料について

①全日本選手権大会資料の所蔵の有無（単一回答）

※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	91	39.1%
所蔵していない	135	57.9%
未回答	7	3.0%
合 計	233	100%

②全日本選手権大会資料の形態（複数回答可）

※全日本選手権大会資料を所蔵する 91 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	37	24.8%
文書資料	57	38.3%
記録資料	43	28.9%
その他	9	6.0%
未回答	3	2.0%
合 計	149	100%

②全日本選手権大会資料の形態で
「その他」の記述回答

写真、大会プログラム、アルバム写真、競技別プログラム

(4) 上記以外の国内大会に関する資料について

①国内大会資料の所蔵の有無（単一回答）

※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	99	42.5%
所蔵していない	120	51.5%
未回答	14	6.0%
合 計	233	100%

②回答のあった主な大会一覧（複数回答可）

※上記以外の国内大会資料を所蔵する 99 機関が対象

回答した機関	回答のあった大会名
博物館、美術館、記念館、資料館	甲子園ボウル(全日本大学アメリカンフットボール選手権大会の決勝戦)
博物館、美術館、記念館、資料館	東ソーボウル(アメリカンフットボール東西大学4年生オールスター ゲーム)
博物館、美術館、記念館、資料館・競技団体 2・大学(博物館、美術館、記念館、資料館)・大学(図書館)・大学(その他)	全日本学生選手権(インカレ) 6件:相撲、ボート、ラグビー、野球、バドミントン含む
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)2	東京六大学野球 2件
図書館 2・大学(博物館、美術館、記念館、資料館)・大学(その他)	箱根駅伝 4件
博物館、美術館、記念館、資料館 3・競技団体・地方自治体 4・体育協会 3・競技施設ほか・大学(図書館)2	全国高等学校総合体育大会 14件:バドミントン、スキー、陸上競技含む
博物館、美術館、記念館、資料館 2・図書館 7	全国高等学校野球選手権大会 9件
博物館、美術館、記念館、資料館・競技団体	全国中学校体育大会(全中大会) 2件:バドミントン、スキー
博物館、美術館、記念館、資料館	全日本少年軟式野球大会(中学生)
競技団体	全日本卓球選手権大会 カデットの部(中学生の全国大会)
競技団体	全日本中学生バドミントン選手権大会(バドミントン協会)
博物館、美術館、記念館、資料館	全日本中等学校体育競技総力大会(戦前～戦後?)
博物館、美術館、記念館、資料館	全日本学童軟式野球大会(小学生)
競技団体	全日本卓球選手権大会 ホープス・カブ・バンビの部(小学生以下の全国大会)
博物館、美術館、記念館、資料館	プロ野球
博物館、美術館、記念館、資料館	東京都軟式野球大会
博物館、美術館、記念館、資料館・大学(その他)	都市対抗野球大会 2件
博物館、美術館、記念館、資料館	Jリーグなど各リーグ戦
博物館、美術館、記念館、資料館	サッカー全国選手権など各種年代別大会
競技団体	日本バウンドテニスゴールド大会
競技団体	ブロック選手権大会(バウンドテニス)
競技団体	ブロック親善交流大会(バウンドテニス)
競技団体	全日本社会人バドミントン選手権大会
競技団体	全日本社会人卓球選手権大会
博物館、美術館、記念館、資料館	日本オープンゴルフ選手権(プロゴルフメジャー大会)
競技団体	日本プロゴルフ選手権大会
競技団体	全国選抜ゲートボール大会
競技団体	全日本世代交流ゲートボール大会
競技団体	全国ジュニアゲートボール大会(6歳～18歳までが対象)
競技団体	全国社会人ゲートボール大会
競技団体	全日本ボウリング協会主催の大会

回答した機関	回答のあった大会名
競技団体	全日本居合道大会
競技団体	全日本杖道大会
博物館、美術館、記念館、資料館	全国柔道高段者大会
競技団体	全日本選抜柔道体重別選手権大会等
博物館、美術館、記念館、資料館・地方自治体	大相撲
競技団体	少林寺拳法全国大会
競技団体	トップリーグ(ラグビー)
博物館、美術館、記念館、資料館	プロボクシング世界タイトルマッチ 13 回
博物館、美術館、記念館、資料館	ライスボウル(アメリカンフットボール日本選手権)
博物館、美術館、記念館、資料館 2	全日本自転車競技選手権大会 2 件
競技団体	世界トライアスロンシリーズ横浜大会
博物館、美術館、記念館、資料館	隅田川レガッタ
博物館、美術館、記念館、資料館	全日本オールドパワースキー大会
博物館、美術館、記念館、資料館	雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会
大学(図書館)	全日本スキー技術選手権大会
博物館、美術館、記念館、資料館	伊香保スケートクラブ杯
博物館、美術館、記念館、資料館	群馬県スピードスケート競技選手権大会
地方自治体	名古屋国際女子マラソン
地方自治体	神戸マラソン
競技団体	全日本オリエンテーリング大会(ロング・ミドルスプリント等)
図書館	天皇杯都道府県対抗男子駅伝競走大会
博物館、美術館、記念館、資料館	秩父宮記念富士登山駅伝競走大会
博物館、美術館、記念館、資料館	山陰オリンピック大会
体育協会・大学(図書館)	日本スポーツマスターズ大会 2 件
図書館	マックアーサー元帥杯競技大会
体育協会	都民体育大会
地方自治体	全国スポーツ・レクリエーション祭
競技施設ほか	昭和 4 年御大礼記念天覧武道会
図書館・競技施設ほか・大学(図書館)2	明治神宮競技大会・明治神宮体育大会 4 件
地方自治体	内閣総理大臣杯
図書館	東亜競技大会

③上記以外の国内大会資料の形態（複数回答可）

※上記以外の国内大会資料を所蔵する 99 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	41	25.8%
文書資料	66	41.5%
記録資料	40	25.2%
その他	8	5.0%
未回答	4	2.5%
合 計	159	100%

③上記以外の国内大会資料の形態で 「その他」の記述回答
切手及び切手原画、競技別プログラム、 大会パンフレット、チラシ、パネル写真等

(5) オリンピックに関する資料について

①オリンピック資料の所蔵の有無（単一回答）

※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	154	66.1%
所蔵していない	70	30.0%
未回答	9	3.9%
合 計	233	100%

②オリンピック資料の件数（自由回答）

※オリンピック資料を所蔵する 154 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
100件未満	46	29.9%
100件以上500件未満	40	26.0%
500件以上1000件未満	9	5.8%
1000件以上	6	3.9%
不明・未回答	53	34.4%
合 計	154	100%

③オリンピック資料の形態（複数回答可）

※オリンピック資料を所蔵する 154 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	68	25.3%
文書資料	98	36.6%
記録資料	74	27.6%
その他	20	7.5%
未回答	8	3.0%
合 計	268	100%

③オリンピック資料の形態で 「その他」の記述回答
県ゆかりの選手のサイン等、役員等制服、東京都報告書 (1939)、選手村使用品、トーチホルダー等、書籍、 直近の文書資料、書籍、DVD、LD、ビデオ、レコード、 切手及び切手原画、映像資料、写真集、ポスター類、 記録に関する紙資料、パネル写真(～1988 年まで)、 札幌オリンピック、写真

(6) パラリンピックに関する資料について

①パラリンピック資料の所蔵の有無（単一回答）
※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	79	33.9%
所蔵していない	144	61.8%
未回答	10	4.3%
合 計	233	100%

②パラリンピック資料の件数（自由回答）
※パラリンピック資料を所蔵する 79 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
50件未満	45	57.0%
50件以上100件未満	5	6.3%
100件以上	1	1.3%
不明・未回答	28	35.4%
合 計	79	100%

③パラリンピック資料の形態（複数回答可）
※パラリンピック資料を所蔵する 79 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	7	6.9%
文書資料	61	60.4%
記録資料	20	19.8%
その他	8	7.9%
未回答	5	5.0%
合 計	101	100%

③パラリンピック資料の形態で 「その他」の記述回答
書籍、直近の文書資料、記録資料に関連する紙資料、 切手及び切手原画、

(7) ユニバーシアードに関する資料について

①ユニバーシアード資料の所蔵有無（単一回答）
※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	68	29.2%
所蔵していない	155	66.5%
未回答	10	4.3%
合 計	233	100%

②ユニバーシアード資料の形態（複数回答可）
※ユニバーシアード資料を所蔵する 68 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	16	17.4%
文書資料	49	53.3%
記録資料	21	22.8%
その他	5	5.4%
未回答	1	1.1%
合 計	92	100%

②ユニバーシアード資料の形態で 「その他」の記述回答
直近の文書資料、切手及び切手原画

(8) アジア競技大会に関する資料について

①アジア競技大会資料の所蔵有無（単一回答）

※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	83	35.6%
所蔵していない	138	59.2%
未回答	12	5.2%
合 計	233	100%

②アジア競技大会資料の形態（複数回答可）

※アジア競技大会資料を所蔵する 83 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	23	19.8%
文書資料	56	48.3%
記録資料	27	23.3%
その他	8	6.9%
未回答	2	1.7%
合 計	116	100%

②アジア競技大会資料の形態で 「その他」の記述回答
直近の文書資料、切手及び切手原画、記録資料に関連する紙資料、トロフィー等

(9) 上記以外の国際大会に関する資料について

①国際大会資料の所蔵の有無（単一回答）

※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	81	34.8%
所蔵していない	137	58.8%
未回答	15	6.4%
合 計	233	100%

②回答のあった主な大会一覧（複数回答可）

※上記以外の国際大会資料を所蔵する 81 機関が対象

回答した機関	回答のあった大会名
博物館、美術館、記念館、資料館 2・図書館・地方自治体 4・競技施設ほか 2・大学（図書館）	FIFA ワールドカップ 10 件
博物館、美術館、記念館、資料館	AFC アジアカップ
競技団体	RUGBY ワールドカップ
博物館、美術館、記念館、資料館	アメリカンフットボール・ワールドカップ

回答した機関	回答のあった大会名
競技団体	世界ゲートボール選手権大会
競技団体	アジアゲートボール選手権大会
競技施設ほか	全英オープン選手権
博物館、美術館、記念館、資料館	世界アマチュアゴルフチーム選手権
競技団体	ドッジボールアジアカップ
競技団体	第1回世界空手道選手権大会
博物館、美術館、記念館、資料館・競技団体	世界剣道選手権大会 2件
博物館、美術館、記念館、資料館2・競技団体・体育協会・大学（その他）	世界柔道選手権大会 5件
地方自治体	1886年嘉納治五郎杯国際柔道大会
競技施設ほか	第2回フランス柔道選手権大会
博物館、美術館、記念館、資料館	福岡国際選手権(柔道)
博物館、美術館、記念館、資料館	世界相撲選手権大会
大学（博物館、美術館、記念館、資料館）	東亜競技大会(水泳)
博物館、美術館、記念館、資料館	サンタクララ国際水泳大会
博物館、美術館、記念館、資料館	アルペンスキー世界選手権
博物館、美術館、記念館、資料館	FIS ノルディックスキー世界選手権
博物館、美術館、記念館、資料館	ノルディックスキー
競技団体	世界カーリング選手権
博物館、美術館、記念館、資料館・競技団体・体育協会	世界卓球選手権大会 3件
競技施設ほか	カンガルーカップ国際女子オープンテニス
競技施設ほか	テニスデビスカップ
大学（博物館、美術館、記念館、資料館）	全英オープン（テニス）
博物館、美術館、記念館、資料館	世界ソフトテニス選手権大会
博物館、美術館、記念館、資料館	アジアソフトテニス選手権大会
博物館、美術館、記念館、資料館	東アジア競技大会ソフトテニス競技
博物館、美術館、記念館、資料館	世界ジュニアソフトテニス選手権
競技団体	BWF ワールドスーパーシリーズ
競技団体	世界男子バドミントン選手権(トマス杯)
競技団体	世界女子バドミントン選手権(ユーパー杯)
競技施設ほか	バドミントン世界選手権大会
大学（その他）	世界体操競技選手権
大学（その他）	国際選抜体操競技大会
大学（図書館）	世界エアロビック選手権大会
図書館	ツール・ド・フランス
博物館、美術館、記念館、資料館	世界自転車競技選手権大会

回答した機関	回答のあった大会名
競技団体	世界トライアスロンシリーズ
競技団体	世界なぎなた選手権大会
競技団体	世界馬術選手権大会
競技団体	FISA 世界ボート選手権
競技団体	世界インドア綱引選手権大会
地方自治体	世界少年野球大会
博物館、美術館、記念館、資料館 2	WBC 2件
博物館、美術館、記念館、資料館	WBSC プレミア 12
大学（博物館、美術館、記念館、資料館）	ボブラップ(ソフトボール)
地方自治体	大阪国際女子マラソン
地方自治体	国際千葉駅伝
博物館、美術館、記念館、資料館・図書館・競技団体 2・体育協会・地方自治体・競技施設ほか・大学（博物館、美術館、記念館、資料館）・大学（図書館）・大学（その他）	世界陸上競技選手権大会 10件
地方自治体	第18回アジアマスターズ陸上競技選手権大会
図書館	織田幹雄記念国際陸上競技大会
競技施設ほか	日米対抗陸上競技大会 昭和8年
図書館・競技団体	ワールドゲームズ 2件
博物館、美術館、記念館、資料館 2	スペシャルオリンピックス冬季世界大会 2件
地方自治体・大学（図書館）	ユースオリンピック競技大会
博物館、美術館、記念館、資料館・図書館・体育協会・大学（図書館）	極東選手権競技大会 4件
大学（その他）	東アジア競技大会
大学（図書館）	東京国際スポーツ大会
博物館、美術館、記念館、資料館	札幌国際冬季スポーツ大会(1971)

③上記以外の国際大会資料の形態（複数回答可）

※上記以外の国際大会資料を所蔵する 81 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	30	23.3%
文書資料	46	35.7%
記録資料	36	27.9%
その他	10	7.7%
未回答	7	5.4%
合計	129	100%

③上記以外の国際大会資料の形態で「その他」の記述回答
選手サイン、大会プログラム、切手及び切手原画、トロフィー

(10) ゆかりのあるスポーツ選手の資料について

① ゆかりのある選手の資料の所蔵 (単一回答)

※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	85	36.5%
所蔵していない	131	56.2%
未回答	17	7.3%
合計	233	100%

② 回答のあった主な選手一覧 (複数回答可)

※ゆかりのある選手資料を所蔵する 85 機関が対象

回答した機関	回答のあった選手名	分野等	機関とのつながり
博物館、美術館、記念館、資料館	イチロー	野球	スポンサー
博物館、美術館、記念館、資料館	小久保裕紀	野球	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館・大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	長嶋茂雄 2 件	野球	競技分野博物館、出身校
博物館、美術館、記念館、資料館 3・図書館	王貞治 4 件	野球	出身地、競技分野博物館
図書館	井口資仁	野球	出身地
図書館	オコエ瑠偉	野球	出身地
図書館	栗山英樹	野球	出身地
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	本屋敷錦吾	野球	出身校
博物館、美術館、記念館、資料館	藤本定義	プロ野球監督	出身地
体育協会	松井栄造	昭和初期の旧制中等学校 野球、大学野球選手	出身校のある地域
図書館	日本大学第三高等学校野球部監督	野球	学校のある地域
博物館、美術館、記念館、資料館	主にサッカー日本代表選手、OB、 OG、現役	サッカー	競技分野博物館
図書館	FC 東京	J1 チーム	ホームスタジアムの地
地方自治体	鹿島アントラーズ	J1 チーム	チームの本拠地
図書館	FC 町田ゼルビアの選手	J2 チーム	チームの本拠地
地方自治体	水戸ホーリーホック	J2 チーム	チームの本拠地
競技施設ほか	セレッソ大阪の選手	J2 チーム	ホームスタジアム
博物館、美術館、記念館、資料館	本田圭佑	サッカー	スポンサー
図書館	荒川恵理子	サッカー	出身地
図書館	李忠成	サッカー	出身地
体育協会	大部由美	サッカー	出身地
地方自治体	中田英寿	サッカー	出身地
図書館	岡田正義	サッカー-審判員	出身地
競技施設ほか	小西静子	なぎなた	出身地

回答した機関	回答のあった選手名	分野等	機関とのつながり
体育協会	岡田弘隆	柔道	出身地
大学(図書館)	嘉納治五郎	柔道	大学関係者
競技施設ほか	川石酒造之助	柔道	出身地
競技施設ほか	栗原民雄	柔道	出身地
競技施設ほか	小谷澄之	柔道	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	西郷四郎	柔道	競技分野博物館
地方自治体	斉藤仁	柔道	出身地
図書館	田村亮子	柔道	出身校のある地域
大学(図書館)	野村忠宏	柔道	出身校
大学(図書館)	山口香	柔道	出身校
体育協会	山下まゆみ	柔道	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	力士全般	相撲	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	雲龍久吉	相撲	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	北の湖	相撲	出身地
図書館	若花田	相撲	出身地
図書館	貴花田	相撲	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	琴奨菊	相撲	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	初代朝汐太郎	相撲	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	千代の富士	相撲	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	千代の山	相撲	出身地
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	土佐ノ海	相撲	出身校
博物館、美術館、記念館、資料館	双葉山	相撲	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	高田裕司	レスリング	出身地
大学(図書館)	吉田沙保里	レスリング	出身校
博物館、美術館、記念館、資料館	具志堅用高	プロボクサー	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	太田美和	スキー	出身地
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	猪野千春	アルペンスキー	出身校
博物館、美術館、記念館、資料館	岡部哲也	アルペンスキー	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館・競技施設ほか	皆川賢太郎 2件	アルペンスキー	出身校、出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	片桐幹雄	アルペンスキー	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	岡部孝信	スキージャンプ	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	笠谷幸生	スキージャンプ	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	斉藤浩哉	スキージャンプ	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	原田雅彦	スキージャンプ	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	船木和喜	スキージャンプ	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	河野孝典	スキーノルディック	出身地

回答した機関	回答のあった選手名	分野等	機関とのつながり
博物館、美術館、記念館、資料館	上村愛子	モーグル	出身地
体育協会	加藤条治	スピードスケート	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館 3	黒岩彰 3 件	スピードスケート	出身地、競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	島崎京子	スピードスケート	所属会社のある地域
博物館、美術館、記念館、資料館	清水宏保	スピードスケート	所属会社のある地域
博物館、美術館、記念館、資料館	鈴木恵一	スピードスケート	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	長島圭一郎	スピードスケート	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	宮部行範	スピードスケート	所属会社のある地域
大学(図書館)	浅田真央	フィギュアスケート	出身校
大学(図書館)	安藤美姫	フィギュアスケート	出身校
大学(図書館)	伊藤みどり	フィギュアスケート	出身校
大学(図書館)	小塚崇彦	フィギュアスケート	出身校
体育協会	佐藤雅子	ホッケー	出身地
体育協会	大家涼子	ホッケー	出身地
体育協会	小林竜一	ボブスレー	出身地
図書館	高橋和宏	アイススレッジホッケー	所属会社のある地域
博物館、美術館、記念館、資料館	ハンネス・シュナイダー	スキー指導者	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	木原均	第 4 代全日本スキー連盟 会長	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	坂部護郎	レルヒ少佐からスキーの 指導を受けた人物	スキーコレクション寄贈者
博物館、美術館、記念館、資料館	田中和仁	体操	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	田中佑典	体操	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	田中理恵	体操	出身地
図書館	宮川紗江	体操	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	福原愛	卓球	スポンサー
博物館、美術館、記念館、資料館	清水善造	テニス	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	田村富美子	テニス	出身地
図書館	錦織圭	テニス	出身地
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	並木伸裕	バドミントン	出身校
地方自治体	久光製薬スプリングス	女子バレーボールチーム	チームの本拠地
地方自治体	大分三好ヴァイセアドラー	バレーボールチーム	チームの本拠地
図書館 2	大林素子 2 件	バレーボール	出身地、出身校
体育協会	山本隆弘	バレーボール	出身地
地方自治体	宮崎大輔	ハンドボール	出身地
図書館	上村知佳	車椅子パスケ	在住地
博物館、美術館、記念館、資料館	青木功	プロゴルファー	競技分野博物館

回答した機関	回答のあった選手名	分野等	機関とのつながり
博物館、美術館、記念館、資料館	岡本綾子	プロゴルファー	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	尾崎将司	プロゴルファー	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	中部銀次郎	アマチュアゴルファー	競技分野博物館
図書館	北島康介	水泳	出身地
体育協会	鈴木大地	水泳	出身地
図書館	田中聡子	水泳	地域で長期間指導
博物館、美術館、記念館、資料館	鶴田義行	水泳	所属会社のある地域
競技施設ほか	中村真衣	水泳	出身地
大学(その他)	田口信教	競泳	大学関係者
博物館、美術館、記念館、資料館	萩野公介	競泳	スポンサー
大学(図書館)	松田文志	競泳	出身校
体育協会	大島鎌吉	陸上	出身地
図書館・大学(博物館、美術館、記念館、資料館)・大学(図書館)2	織田幹雄 4件	陸上	出身地、出身校、その他
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	高石勝男	陸上	出身校
博物館、美術館、記念館、資料館・競技施設ほか・大学(図書館)	南部忠平 3件	陸上	出身地、大学関係者
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	西田修平	陸上	出身校
博物館、美術館、記念館、資料館・大学(図書館)	人見絹枝 2件	陸上	出身地、出身校
博物館、美術館、記念館、資料館	八木たまみ	陸上	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	吉岡隆徳	陸上	出身地
大学(その他)	渡邊(梅村)すみ子	陸上	大学関係者
博物館、美術館、記念館、資料館・大学(図書館)	室伏広治 2件	ハンマー投げ	スポンサー、出身校
博物館、美術館、記念館、資料館	有森裕子	マラソン	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	エリック・ワイナイナ	マラソン	所属会社のある地域
体育協会	高橋尚子	マラソン	出身地
体育協会	増田明美	マラソン	出身地
図書館	井出樹里	トライアスロン	在住地
図書館	関根明子	トライアスロン	在住地
体育協会	永井清史	競輪	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	江原政光	自転車	博物館関係者
体育協会	和田見里美	自転車	出身地
図書館	土田和歌子	車椅子アスリート	在住地
博物館、美術館、記念館、資料館	植村直己	冒険家	競技分野博物館
博物館、美術館、記念館、資料館	平林克敏	登山	出身地
博物館、美術館、記念館、資料館	山崎喜作	スポーツ振興	出身地

③ゆかりのある選手資料の形態（複数回答可）

※ゆかりのある選手資料を所蔵する 85 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	47	36.2%
文書資料	44	33.8%
記録資料	26	20.0%
その他	3	2.3%
未回答	10	7.7%
合 計	130	100%

③ゆかりのある選手資料の形態で 「その他」の記述回答
写真、当時の新聞記事スクラップ

(11) 郷土特有の伝統的なスポーツ資料について

①郷土特有の伝統的なスポーツ資料の所蔵（単一回答）

※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
所蔵している	40	17.2%
所蔵していない	179	76.8%
未回答	14	6.0%
合 計	233	100%

②回答のあったスポーツのジャンル一覧

※郷土特有の伝統的なスポーツ資料を所蔵する 40 機関が対象

回答した機関	回答のあったジャンル名
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	打毬(日本の競技・遊戯)
博物館、美術館、記念館、資料館 2・大学(図書館)	蹴鞠 3 件
大学(博物館、美術館、記念館、資料館)	セパタクロ
図書館	フットサル
図書館	サッカー
図書館	バレーボール
図書館	野球
博物館、美術館、記念館、資料館	草(学童)野球
博物館、美術館、記念館、資料館	上井草球場(東京セネターズ) ※かつて東京都杉並区上井草にあった野球場
博物館、美術館、記念館、資料館 5	スキー競技 5 件
博物館、美術館、記念館、資料館 3	スケート競技 3 件
博物館、美術館、記念館、資料館 2	スケート靴 2 件
博物館、美術館、記念館、資料館	カーリングのストーン
博物館、美術館、記念館、資料館	雪合戦
図書館	弓道
博物館、美術館、記念館、資料館	空手

回答した機関	回答のあったジャンル名
博物館、美術館、記念館、資料館	沖縄伝統の古武器
大学(その他)	武道関係資料(示現流など)
博物館、美術館、記念館、資料館	柔術
博物館、美術館、記念館、資料館 8	相撲 8 件
博物館、美術館、記念館、資料館	大阪マラソン
博物館、美術館、記念館、資料館 2	自転車競走 2 件
図書館	火縄銃
博物館、美術館、記念館、資料館 2	登山 2 件
博物館、美術館、記念館、資料館	ボートレース
博物館、美術館、記念館、資料館	ペーロン(長崎地方で行われる(竜)舟競争の年中行事)
図書館	荒川ころばん体操(荒川区と首都大学東京が共同開発したオリジナルの転倒予防体操)
図書館	ドッチビー(ソフトディスクを使用して行うドッチボール形式のゲーム)
図書館	キンボール(1986 年カナダで生まれたニュースポーツ)
図書館	エスキーテニス(広島のご当地スポーツ)

③伝統的なスポーツ資料の形態 (複数回答可)

※伝統的なスポーツ資料を所蔵する 40 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
実物資料	23	30.3%
文書資料	24	31.6%
記録資料	22	28.9%
その他	5	6.6%
未回答	2	2.6%
合計	76	100%

③郷土特有の伝統的なスポーツ資料の形態で「その他」の記述回答
絵画等、DVD、写真等

C スポーツ資料の管理

I スポーツ資料の管理について

(1) スポーツ資料の目録やリスト (単一回答)

※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
目録やリストがある	67	28.8%
目録やリストの作成を検討中	22	9.4%
目録やリストはない	139	59.7%
未回答	5	2.1%
合計	233	100%

(2) デジタルアーカイブ化 (単一回答)
※スポーツ資料を所蔵する 233 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
行っている	29	12.4%
検討中である	33	14.2%
行う予定はない	167	71.7%
未回答	4	1.7%
合 計	233	100%

(3) デジタルアーカイブの公開 (単一回答)
※デジタルアーカイブ化を実施中の 29 機関が対象

選択肢	回答数	構成比
公開している	14	48.3%
公開していない	15	51.7%
合 計	29	100%

D 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館との連携

I 連携について

(1) 連携が可能か (単一回答)

選択肢	回答数 ※カッコ内はスポーツ資料を持つ機関	構成比 ※カッコ内はスポーツ資料を持つ機関
協力したい	52 (46)	17.3% (19.8%)
協力を検討する	156 (131)	51.8% (56.2%)
協力は難しい	82 (49)	27.2% (21.0%)
未回答	11 (7)	3.7% (3.0%)
合 計	301 (233)	100% (100%)

(2) どのような連携・協力が可能か (複数回答可)

※協力をしたい・協力を検討すると回答した 207 機関が対象

選択肢	回答数 ※カッコ内はスポーツ資料を持つ機関	構成比 ※カッコ内はスポーツ資料を持つ機関
資料の貸借	129 (114)	36.8% (19.8%)
本事業の巡回展への協力	72 (60)	20.5% (19.8%)
スポーツ資料に関する情報交換	132 (119)	37.6% (19.8%)
その他	18 (12)	5.1% (19.8%)
合 計	351 (305)	100% (100%)

(2) どのような連携・協力が可能か、で「その他」の記述回答

広報協力、チラシ等交換・設置、企画展示のポスター掲示、秩父宮家に関する資料の情報交換、レファレンス

5. アンケート調査票

A 基本情報についておたずねします

I 基本情報についておたずねします	
(1) 貴機関の名称をご記入ください ※正式名称の表記に旧字体等が使われる場合は、そのままご記入ください	
名称	
(2) あなたの所属部署（役職名）、お名前、連絡先（電話番号）をご記入ください ※ご記入いただいたご回答者の所属、氏名、連絡先等の個人情報は、個人情報保護の観点から厳正に扱います。 関係者のみが閲覧し、本事業以外の目的で使用することはありません	
所属部署 （役職名）	
お名前	
電話番号	
II 貴機関が所有する展示施設についておたずねします	
(1) 所蔵資料を展示する施設はございますか？〔一つだけ〇〕	
1. 展示施設がある ⇒ 設問IIの(2)～(5)へ 2. 展示施設がない ⇒ 設問IIIへ	
(2) 展示施設の名称をご記入ください	
名称	
(3) 展示施設の設置者及び管理運営者をご記入ください	
設置者	
管理運営者	
(4) 展示施設の開設年月をご記入ください	
西暦	年 月
(5) 展示施設の年間来場者数をご記入ください	
年間来場者数	人（年度）
III 貴機関が所蔵する収蔵資料件数についておたずねします	
(1) 貴機関が所蔵する総収蔵資料件数についてご記入ください。	
1. 総収蔵資料件数 件（年度）	
2. 不明	

B スポーツに関する資料についておたずねします

日本国内に点在するスポーツに関する資料の所在状況を把握するため、以下の質問へのご回答をお願いします。なお、設問Ⅱにつきましては、資料の分類を以下のように想定しております。

実物資料：スポーツ用具、トロフィー、メダル、賞状、ユニフォーム、大会旗、トーチ、記念硬貨、大会ポスター、大会マスコット等の記念品、彫刻、絵画など
 文書資料：古文書や公文書、書籍、地図、建築図面、報告書、手記など
 記録資料：写真、映像、音声資料など

I スポーツ資料の所蔵についておたずねします	
(1) スポーツに関する資料を所蔵していますか？〔一つだけ〇〕	
1. 所蔵している ⇒ 設問Ⅱへ	2. 所蔵していない ⇒ P.4のC・Dへ
II 所蔵するスポーツ資料についておたずねします	
スポーツ資料の所蔵について、選択肢の中から該当するものを一つお選びください。 「1. 所蔵している」をお選びの場合は、さらに、所蔵する資料の形態について選択肢の中から該当するものすべてをお選びください。(複数回答可)	
(1) 国民体育大会(国体)に関する資料についてご記入ください	
1. 所蔵している	⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他()
2. 所蔵していない	
(2) 全国障害者スポーツ大会に関する資料についてご記入ください	
1. 所蔵している	⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他()
2. 所蔵していない	
(3) 全日本選手権大会(すべての競技が対象)に関する資料についてご記入ください	
1. 所蔵している	⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他()
2. 所蔵していない	
(4) 上記以外の国内大会に関する資料についてご記入ください。主な大会だけで結構です	
1. 所蔵している	⇒ 大会名()
	⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他()
2. 所蔵していない	

(5) オリンピックに関する資料についてご記入ください
1. 所蔵している (_____ 件) ⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他 (_____) 2. 所蔵していない
(6) パラリンピックに関する資料についてご記入ください
1. 所蔵している (_____ 件) ⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他 (_____) 2. 所蔵していない
(7) ユニバーシアードに関する資料についてご記入ください
1. 所蔵している ⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他 (_____) 2. 所蔵していない
(8) アジア競技大会に関する資料についてご記入ください
1. 所蔵している ⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他 (_____) 2. 所蔵していない
(9) 上記以外の国際大会に関する資料についてご記入ください。主な大会だけで結構です
1. 所蔵している ⇒ 大会名 (_____) ⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他 (_____) 2. 所蔵していない
(10) 貴機関とゆかりのあるスポーツ選手(郷土や大学機関等)に関する資料についてご記入ください。主な選手だけで結構です
1. 所蔵している ⇒ 選手名 (_____) ⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他 (_____) 2. 所蔵していない
(11) 郷土特有の伝統的なスポーツ資料についてご記入ください
1. 所蔵している ⇒ ジャンル名 (_____) ⇒ a. 実物資料 b. 文書資料 c. 記録資料 d. その他 (_____) 2. 所蔵していない

C スポーツ資料の管理についておたずねします

I スポーツ資料の管理についておたずねします
(1) スポーツ資料の目録やリストはございますか？〔一つだけ〇〕
1. 目録やリストがある 2. 目録やリストの作成を検討中である 3. 目録やリストはない
(2) スポーツ資料のデジタルアーカイブ化を行っていますか？〔一つだけ〇〕
1. デジタルアーカイブ化を行っている ⇒ 設問(3)へ 2. デジタルアーカイブ化を検討中である 3. デジタルアーカイブ化を行う予定はない
(3) デジタルアーカイブとして公開を行っていますか？〔一つだけ〇〕
1. 公開している 2. 公開していない

D 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館との連携についておたずねします

「スポーツミュージアム連携・啓発事業」では、秩父宮記念スポーツ博物館・図書館を中核館として、スポーツに関する資料を所蔵する全国の博物館、図書館、資料館、関係団体等と、スポーツミュージアムネットワークの構築を目指しています。

そこで、秩父宮記念スポーツ博物館・図書館との連携についてお伺いします。

I 連携についておたずねします
(1) 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館との連携にご協力いただけますか？〔一つだけ〇〕
1. 協力したい ⇒ 設問(2)へ 2. 協力を検討する ⇒ 設問(2)へ 3. 協力は難しい
(2) どのような連携・協力が可能でしょうか？〔いくつでも〇〕
1. 資料の貸借 2. 本事業の巡回展への協力(資料提供や施設提供など) 3. スポーツ資料に関する情報交換 4. その他()

アンケート項目は以上となります。ご協力いただき誠にありがとうございました。